

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子

ダブルムーンは子どもたちが大にぎわい



開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第10号

発行日：令和8年1月30日（金）

発行者：杉山 孝史

ぐんと伸びる3学期



1月8日（木）、いよいよ1年のまとめとなる第3学期が始まり、冬休みを元気に過ごした子どもたちの明るい笑顔が園に戻ってきました。始業式では、まず教員がパープサートを使って

十二支の話を紹介し、子どもたちは興味津々の様子で見入っていました。続いて、園長がやなせたかしさん作『しろい うま』を読み聞かせると、子どもたちは物語の世界に引き込まれたように、静かに耳を傾けていました。

3学期は、子どもたちが大きく成長する大切な時期です。特に年長児にとっては、小学校への期待と不安が入り混じる季節。日々の生活や遊びの中で「できた」「わかった」という自信を積み重ねられるよう、すべての職員で一人一人の子どもたちを支えてまいります。あと2か月、笑顔と元気、そして気持ちのよい挨拶があふれる幼稚園をみんなでつくっていきましょう。子どもたちのさらなる成長を楽しみにしています。

火事になったらすぐ逃げろ



1月23日（金）に行った火災避難訓練は、事前の周知をせずに実施しました。突然の放送にも子どもたちは落ち着いて反応し、遊びをすぐにやめて「お・

か・し・も」の約束を守りながら避難する姿が見られました。日頃から伝えている「地震が来たらダンゴムシ、火事になったらすぐ逃げろ！」の合言葉もよく覚えており、状況に合わせて行動ができました。さすが、開成幼稚園児＝「すてきさん」です。

当日は消防署の方に来園していただき、煙を吸わないよう低い姿勢で逃げること、避難中はしゃべりをせずに先生の指示をよく聞くことなど、命を守るためのポイントを教わりました。（写真）また、幼稚園の避難体制についてもご助言をいただき、より安全な環境づくりにつながる機会となりました。子どもたちの真剣な表情が印象的な訓練でした。

ルールを守って安全に



1月16日（金）、年長児が交通安全教室に参加しました。園周辺の道路に出て、道の歩き方や横断歩道の安全な渡り方を実際に体験しました。どんぐり会館

では交通ルールやマナーについてのビデオを視聴し、警察官の方から道路を歩く際に気を付けたいポイントを教えていただきました。歩道の各所では、町の交通指導隊やPTA 地区交通安全委員の皆さんにも見守っていただき、子どもたちは落ち着いてしかも真剣に取り組むことができました。

卒園まであと2ヶ月。まもなく一人で学校へ向かう毎日が始まります。今回の経験が、小学校生活の自信の一つになっていくことでしょう。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

絵本の中のご飯を食べる



1月下旬の3日間、「絵本の中のご飯を食べてみよう」をテーマに絵本給食を行いました。物語に登場する食べ物を実際に味わうことで、絵本の世界を身近に

感じ、食への興味や意欲につなげることをねらいとしています。学年ごとに選んだ絵本は、年少「あけてびっくり仕掛け絵本、ふたをばっか」、年中「うみのごちそうしろくま」、年長「もりのスパゲッティやさん」です。事前の読み聞かせに加え、給食時には登場人物になりきった声掛けを取り入れ、食べる楽しさを広げていきました。

27日（火）の年少学級では、シチューの中に星形のニンジンを見つけて、「あっ、絵本と同じ星のニンジンだ！」など、子どもたちは目を輝かせていました。また、つばめルームでは栄養士による読み聞かせタイムも設け、興味のある子が自由に参加できる場を作りました。（写真）絵本と食事がつながる特別な3日間—子どもたちの「食べてみたい」という気持ちがさらに育つことを願っています。

※今回の絵本給食で読み聞かせをした絵本が、各学級にプレゼントされました。

お当番は私たちに任せて

3学期から、年中児が新たに当番活動を引き継ぎました。これまで年長児が担当してきた、ウサギ・メダカ・花の水やりの3つの活動です。

毎朝当番の子が職員室に来て「ウサギ小屋のカギを貸してください」と元気いっぱいに声をかけます。数人で手分けをし、ウサギの糞を掃き集め、水や餌を補給し、ワラをしいてお世話は完了です。月曜日には、お腹を空かせたウサギが子どもたちに寄ってくる姿も見られ、子どもたちは嬉しそうに関わっています。これらの活動に責任をもって取り組むことで、新たなリーダーとしての自覚が少しずつ育ってきています。



一方、年長児はコックさん（給食当番）として年少児の配膳を手伝っています。自分の役割を自覚し、てきぱきとお盆に食器やスプーンなどを並べ、お皿におかずを置いて

いく姿はとても頼もしいものです。配膳が終わると、年少児から「ありがとうございました」と感謝の声を送られ、コックさんは満足そうな表情を見せています。このような活動を通して、年下の子を思いやる気持ちや友達と協力し合うことの大切さを学んでいます。

休日は親子でのんびり

1月の年少学級懇談会は、これまでの子どもたちの園生活を振り返り、保護者の方どうしや担任との交流を深めることを目的に開催しました。担任がスライドで子どもたちの様子を紹介した後、2つのグループに分かれて「お出かけスポット」や「休日の過ごし方」について紹介し合いました。

多くのご家庭が、公園でのびのび遊んだり、自然や生き物に触れ合ったりする時間を大切にされていることが分かりました。また、雨の日は図書館へ行くというご家庭もありました。懇談会を通して子育ての悩みや喜びを分かち合う温かな時間となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



う、ま、く、い、く、年



うま年はどんな年？

うま年のうまという漢字は、正午の「午」です。昔は、東西南北や時刻を表すのに十二支を使っていました。午の方角はちょうど真南にあたり、太陽が最も高く昇るのが「正午」です。そこで午年は、活気や情熱が最高潮になるエネルギーな一年になるのだそうです。行動が実を結ぶのが今年です。いろいろなことに前向きにチャレンジするとよいそうです。（諸説ありますが・・・）

ひだまり

春遠からじ

▼年が明け、園庭にも本格的な冬の寒さが訪れています。メダカの池には分厚い氷が張り（写真）、



泥んこ広場にはサクサクと音を立てる霜柱が立ち並びます。大人にとっては思わず肩をすくめる季節ですが、子どもたちはというと、氷や霜柱を見つけては目を輝かせ、冬からの贈り物を手にしたかのように時間を忘れて楽しんでいきます。冷たい空気の中でも、子どもたちの笑い声は不思議とあたたかく、園庭に元気を運んでくれます。

▼先週は、年中の1クラスがインフルエンザの流行により学級閉鎖となりました。体調を崩した子どもたちが早く元気になりますようにと願う一方で、園庭では風あけや追いかけっこに夢中になる子どもたちがいます。冷たい北風に向かって走り、風を空へと舞い上げる姿、砂場で友達とじっくりと遊び込む姿は、寒さを忘れさせるほどの活気に満ちています。冬ならではの遊びを見つけ、工夫しながら楽しむ子どもたちのたくましさを感じます。

▼冬の空気はまだまだ冷たさを残しています。しかし、日差しは日ごとに強さを増し、園庭の影の形にも少しずつ春の気配が感じられるようになりました。「冬来たりなば春遠からじ」―厳しい季節の中にも、次の季節への希望が確かに芽生えてきています。まさに今の子どもたちの姿そのものだと感じます。寒さの中で見つけた小さな発見や喜びが、次の成長へとつながっていくのでしょうか。

▼進級・卒園まで残り2ヶ月。寒さの中でも元気いっぱい過ごす子どもたちは、この冬を通してまたひとつたくましさや身をつけています。春になれば、ひとつ上の学年へと進み、年長児は小学校という新しい世界へ羽ばたきます。どの子も自信を胸に次のステップへ進んでいけるだろうと、確かな期待がふくらみます。子どもたちが季節の変化を感じながら、残りの園生活も、仲間とともに豊かな時間を過ごせるよう見守っていききたいと思います。春遠からじ。